図8　調査区（矢印）および藤原宮跡　西北上空から

れず、空閑地的に残されたのではないだろうか。

次に、本調査区が最も高密度に利用されていた平安時代末から鎌倉時代の状況を見ると、井戸がきわめて多いことがその特徴としてあげられる。1,260㎡に10基（近世の井戸SE8917を除く）、井戸のない東部と南部を除けば750㎡に10基という高密度になり、しかも隣接して4基あるいは2基といった配置が目をひく。こうしたことから、これらの井戸は単に通常の生活に供されていたとみるよりも、むしろ水を使用する何らかの生業用と考える方が妥当かもしれない。いずれにせよ、建替えを伴う3棟の建物等の存在とも相俟って、この場所で生業を含めた生活が営まれていたことは確実である。本調査区の南方では、これまでの調査（藤原宮第27-6・63-2・66-3・66-4・75-12次）で複数の環濠居館の存在が想定されているが、本調査区内には環濠はなかった。しかし、上記のような生活空間を想定するとき、やはりこの場所も環濠に囲われていた可能性が大きいことが指摘できよう。それが居館なのか、あるいはもっと広い範囲を含む集落なのかは、今後の周辺の調査に待ちたい。

（小野健吉）

コラム：あ　す　か　ふ　じ　わ　ら　①

1998年度も発掘現場は4班編成で、調査を行った。前年度冬班も6月初旬まで稼働したが、本年度も飛鳥池遺跡をはじめ、重要遺跡での貴重な遺構・遺物の検出が相次ぎ、各班とも延長戦を強いられた。なお、第93次調査では瓦窯の調査のため、瓦整理室を中心に「飛鳥池瓦窯特別調査班」（1998.11.30～1999.1.18）が結成された。　（N）

表2　1998年度　現場班編成

	春	夏	秋	冬
調査員 ※：総担当	※安田龍太郎（考古第1） 深澤　芳樹（考古第1） 長尾　　充（遺構）	松村　恵司（考古第2） ※花谷　　浩（考古第1） 島田　敏男（遺構）	※巽　淳一郎（遺構） 寺崎　保広（史料） 小澤　　毅（史料）	毛利光俊彦（史料） ※西口　壽生（考古第2） 小野　健吉（遺構） 村上　　隆（考古第2）
調査補助員	水戸部秀樹 渡邉　淳子（研修）	伊藤敬太郎 田福　　涼（研修）	鈴木　恵介 渡邉　淳子	田福　　涼
調査期間と主な調査	1998.4.7.～7.31. 第87次（飛鳥池遺跡） 第90次（藤原京右八・一） 第92次（飛鳥池東方遺跡）	1998.6.11.～11.6. 第90次（藤原京右八・一） 第93次（飛鳥池遺跡）	1998.10.5.～1999.2.21. 第93次（飛鳥池遺跡） 第94次（藤原宮西北官衙）	1999.1.7.～5.7. 第94次（藤原宮西北官衙） 第95次（吉備池廃寺） 第96次（藤原宮西面南門） 第97次（飛鳥寺）

総括：部長　黒崎　　直　　写真担当：井上　直夫、中村　一郎／　保存科学：村上　　隆